

韓国環境部プレスリリース 2020 年 1 月 28 日付

## 野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 118 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1223725&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョンゲン）百鶴面（ペッカシムン）2次フェンスの中で発見された野生いのししの死体から ASF ウイルスが検出されたと 1 月 28 日明らかにした。

死体は 1 月 27 日、山を捜索した国立環境科学院調査チームと漣川郡（ヨンチョンゲン）関係者によって発見された。漣川郡（ヨンチョンゲン）は野生いのしし ASF 標準行動指針により試料を採取して現場消毒と共に死体を処理した。

国立環境科学院は 1 月 28 日、死体から ASF ウイルスが検出されたことを関係機関に通知した。これで漣川郡（ヨンチョンゲン）では 38 件の野生いのしし ASF 陽性事例となり、全国的には 118 件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は"今回の死体は既存感染地域内で発見された。この地域では感染した死体がさらに発見される可能性がある"と話した。

以上